

解答・解説

解答は下のQRコードから

P1

でも見ることができません

- 1 ①りっしんべん ②りつとう ③がんだれ
④おおぎと ⑤うかんむり

- 2 ①まだれ ②たけかんむり ③くさかんむり
④しんによう(しんにゆう) ⑤もんがまえ

- 3 ①行 ②礼 ③花 ④魚 ⑤波

- 4 ①十画(烈) ②八画(拍) ③十画(袖)
④九画(迷) ⑤十画(郡)

P2

- 5 ①救助 ②損得 ③親友 ④作文

※③親しい友 ④文を作る

- 6 ①イ ②ウ

※①上が下の語を打ち消す。②主語と述語の関係。(骨が折れる・日が没する)

- 7 ①イ ②ア ③エ

- 8 ①人工 ②減少 ③上昇 ④温暖

P3

- 9 ①無 ②未 ③非 ④不 ⑤感

- 10 ①献立 額縁 ②夕刊 場所

- 11 ①熱↓暑 ②至適↓指摘 ③仮定↓過程
④照会↓紹介 ⑤機械↓機会

- 12 保健↓保険 保証↓保障

P4

- 13 ①夢(無我夢中・我を忘れてひたすら行動すること。)

- ②耳(馬耳東風・人の意見や批判を聞き流すこと。)

- ③憂(一喜一憂・喜んだり心配したりすること。)

- ④試(試行錯誤・失敗を重ねながらも成功に近づくこと。)

- ⑤鳥(一石二鳥・ひとつの行動からふたつの利益を得ること。)

- ⑥以(以心伝心・だまっけても心が通じること。)

- ⑦夕(一朝一夕・わずかな時間のこと。)

- ⑧期(一期一会・一生に一度だけの出会い。)

- ⑨八(四苦八苦・非常に苦しむこと。)

- ⑩口(異口同音・みな意見が一致すること。)

14 ①耳（弱点を指摘され、聞くのがつらい。）

②足（足が疲れはてる。）

③口（あきれてものも言えない。）

④目（相手の方がすぐれていること認め、敬意を払う。）

⑤腹（おかしくてたまらず大笑いする。）

P5

15 ①回（急ぐ時には遠回りでも安全な道を選んだ方が、結局は早く

目的地に着く。）

②三（辛くても辛抱し続けると最後には報われる。）

③地（もめごとが起こったあと、かえって前よりも事態が安定する。）

④初（最初のころの志を忘れてはいけない。）

⑤聞（聞いたことよりも実際に自分の目で見る方が確実である。）

16

①ウ

②エ

③オ

④イ

⑤ア

P6

1 ①四文節

②五文節

③五文節

※①母は「花壇に／チューリップを」植えた。

母は「花壇に」チューリップを植えた。

「ネ」を入れて、意味が通じる最小の単位が文節。

②本を／読む／ために／図書館へ／行った。

③スポーツを／する／ことは／とても／重要だ。

2 ①阿蘇山 九州 ②小説 奥

※名詞は「が」「は」などをつけて主語になることができる。

3 ①きちんと ②ずっと ③とても

※副詞は「どのように(状態)・どのくらい(程度)」を表す。

きつと・やっと・すぐに・たぶん・ようやく・かなり・どんどん など。

4 ①ある ②大きな ③おかしな

※連体詞は、名詞を修飾(次にくる名詞を詳しく説明)する。

この・その・小さな・いわゆる・たいした・あらゆる・いろんな など。

P7

5 ①だから ②それとも ③ところで

※接続詞は、では・つまり・または・しかし・すると など。

6 ①おはよう ②ねえ ③さあ

※感動詞は「感動・呼びかけ・応答・あいさつ」を表す。

ああ(感動)・もしもし(呼びかけ)・はい(応答)・こんにちは(あいさつ) など。

7 ①五段活用 ②上一段活用 ③下一段活用

④カ行変格活用 ⑤サ行変格活用

※「ナイ」を付けて見分ける。

①書か^ナナイ(ナイの上の音がア段(か)なので、五段活用)

②起き^ナナイ(ナイの上の音がイ段(き)なので、上一段活用)

③決め^ナナイ(ナイの上の音がエ段(め)なので、下一段活用)

④カ行変格活用は「来る」のみ。

⑤サ行変格活用は「する」「―する」のみ。(勉強する・熱中するなど)

P8

- 8 ①おいしい ②寒い ③かわいい

※形容詞は終止形が「い」で終わる。

P9

- 9 ①おだやかだ ②正直な ③静かな

※形容動詞は終止形が「だ」で終わる。(②正直だ ③静かだ)

P10

- 10 ①らしい ②られる ③そうだ

※①推定の助動詞 ②尊敬の助動詞 ③伝聞の助動詞

ない(否定)・させる(使役)・ようだ(推定など) など。

P11

- 11 ①が ②に ③の・は

※助詞は、に・も・を・から・だけ・ばかり・ので・けれど など。

P9

- 1 ①(例) いらっしゃる (おいでになる) ②(例) 召しあがった

- ③(例) おっしゃる

- 2 ①(例) 拝見しました ②(例) お持ちします

- ③(例) お目にかかります

※「謙讓語」は、自分の動作を低めて表す。

- 3 ①(例) お客様はすでに帰られた(お帰りになった)そうです。

- ②(例) 明日、私は上田先生のご自宅に伺います。

- ③(例) 父は出かけています(出かけております)。

※①「帰る」の尊敬語を使う。

②「行く」の謙讓語を使う。

③身内には尊敬語は使わない。

敬語のポイント(主語が)

相手や目上の人なら↓尊敬語+丁寧語

自分や身内なら↓謙讓語+丁寧語

P10

- 1 (1)ウ (2)いらっしゃいますか(おいでになりますか)

※①自分の動作を低めて、先生への敬意を表す「謙讓語」を使う。

(2)先生の動作や状態を高める「尊敬語」を使う。

「いる」の尊敬語は「いらっしゃる・おいでになる」。

P11

- 2 (1)イ (2)ア

※②数学的な驚きが：主語を作る助詞、ア 主語を作る助詞。

イ「雨だった」という文と「晴れている」という文を反対の内容(逆説)でつないでいる。

ウ「うなだけどなあ」という言い方で、主語を表す「が」ではない。

P12

- 3 (1)記憶↓記憶 (2)彼ら・道具 (3)ウ

※②名詞は「が」「は」などをつけて主語になれる。「次々と」は副詞。

(3)まるでを付けて「まるで死を悼むような」と言いかえられるものを選ぶ。

ア「例えばバラやユリのような」と言いかえられる。(例示)

イ「来たらしい」と言いかえられる。(推定)

ウ「まるで雪のような」と言いかえられる。(比況(たとえ))

P12

- 4 (1)イ (2)ウ (3)エ

※①①無自覚 ②不自由

(2)「着席」動詞の下に目的語がくる(席に着く)。「寒暖」反対の意味どうし。

「絵画」似た意味どうし。「非常」上が下を打ち消す。

P12

- 5 (1)こぎとへん (2)イ (3)ウ

※①「こぎとへん」(院・険) 「おおざと」(部・都)

(2)読む↑書を

(3)連体詞は名詞だけを修飾する。

あらゆる分野

6 (1) 境界 (2) 地域による (3) イ

※(2) 「それ」「これ」などの指示語は、直前に出た内容を指すことが多い。
(3) 発光間隔の具体例をあげているので、「例えば」を選ぶ。

P13

7 (1) ウ (2) 狩りや採集 (3) 安心感

※(1) 「きへん」柿・机など 「いとへん」級・紀など 「のぎへん」私・科など

8 (1) ア (2) 方角 (3) 陰陽道という考え方

※(1) 「うかんむり」安・守など 「くさかんむり」苗・花など
「たけかんむり」笑・算など (3) 基づく＝根拠にする。

P14

9 (1) 安心 (2) ウ (3) III

※(2) カ行変格活用の動詞は「来る」のみ。

10 (1) イ (2) ウ、エ (3) イ

※(1) 「続けナイ」(ナイを付けると、ナイの上の音がエ段(け)なので下一段活用)
(2) ヒグマを詳しく説明している(修飾している)語句を選ぶ。
(3) 圧倒|当番 転倒|到達

P15

11 (1) ア (2) 非(日常) (3) ア、イ

※(1) 「初」「利」七画 「依」八画 「波」八画
(2) 日常＝見られたものごとから成り立つ、へいぼんな日々。

12 (1) ア (2) ウ (3) イ

※(1) 外に出す「放出」に対して、うちに取り入れる「吸収」が対義語となる。
(2) サ行変格活用は、「する」「ーする」のみ。(3) ア、ウは本文に書いてない。

P16

13 (1) ア (2) イ (3) ウ

※(1) 「踊る」にナイをつけて見分ける。

「踊らナイ」ナイの上の音がア段(ら)なので、五段活用。

(2) ミツバチのダンスは、他には例がないほど珍しい「数学的な言語」である。

14 (1) ア (2) イ (3) ウ

※(2) 「由来」物事が始まったゆえん。「起源」物事の起こり。はじまり。

(3) 「偶然」 たまたま起こること。「必然」必ずそうなること。

P17

15 (1) 六文節 (2) ウ (3) 日本固有の美意識・純粋な魂

※(1) 小泉八雲は／日本の／古い／物語を／英語で／書きました。

(2) 畏敬＝おそれうやまうこと。念＝思い。気持ち。

16 (1) イ (2) ①想像力 ②信用

※(1) 「しのぐ」困難や苦痛を耐え忍ぶこと。

P18

17 (1) ウ (2) 口 (3) ア

※(1) 「怒る+れる」この文での助動詞「れる」は受け身の意味。

「怒られた」は「怒られる」の過去形。

(2) 異口同音＝多くの人が口をそろえて同じことを言うこと。

(3) 不快＝気持ちが悪いようす。感激＝心に感じて興奮する(ふるいたつ)こと。
愉快＝楽しくて、大きく笑いたくなるようなようす。

P18

- 18 (1) エ (2) ウ (3) インターネットで遺跡の歴史を調べたから。

※(1) 副詞は「どのように(状態)・どのくらい(程度)」などを表す。

きつと・やつと・すぐに・たぶん・ようやくなど。

- (2) 「ナイ」を付けて見分ける。「調べナイ」ナイの上がエ段(へ)なので、
下一段活用

P19

- 19 (1) 未解決 (2) イ

※(2) 直樹は、「ただ不思議だと思ったから言った」と述べており、僕の悩みを解決しようという意図をもって話し始めたわけではない。

- 20 (1) 受賞 (2) ウラン鉱石 (3) ウ

※(1) 「授賞」賞をさげること。「受賞」賞をうけること。

- (3) マリーは研究中に大量の放射線を浴び続けた。

P20

- 21 (1) ア (2) にんべん (3) 兄の背中が大きく見え、音色に温

かく迎えられ、やさしく導かれたから。

※(1) 動かナイ(ナイを付けると、ナイの上の音がア段(か)なので五段活用)

- (2) 部首が「にんべん」の漢字は、休、体、他など。

- (3) 直前の二文をまとめる。

- 22 (1) ア (2) 神仏が宿る聖域 (3) イ

※(1) 形容詞は終止形が「ーい」で終わる。速い・明るい・美しいなど。

- (3) 古い日本の考え方や習慣が、途絶えることなく現代の人々の心や生活の中に「生きている」という意味。

P21

- 23 (1) ウ (2) イ (3) ウ (4) 国や地域が持つ文化や、色を表す言葉の枠組みが異なるから。

※(1) 「美しい」形容詞(終止形が「ーい」で終わる。)

「眺めて」動詞(眺める)

「繊細で」形容動詞(終止形が「ーだ」で終わる。)

- (2) 「希少」めったにないくらい、少ないようす。

- (4) 直後の文章をまとめる。

P22

- 1 (1) ①なお ②とびちがいたる (2) 蛍 (3) イ (4) ア

※(1) 「ほ」「ひ」を現代仮名遣いに直すと「お」「い」になる。

- (訳) 夏は夜。月が出ている時期はもちろん、闇夜でもやはり、蛍がたくさん飛び交っている(様子はすばらしい)。また、たった一匹か二匹が、かすかに光って飛んで行くのも趣がある。雨が降るのも趣がある。

- 2 (1) ア (2) ウ (3) ③あわれ ④おかし (4) ウ

※(1) 「ある人の」は主語を表す。

- (3) 「は」「を」を現代仮名遣いに直すと「わ」「お」になる。

- (訳) 世の中のあらゆることは、月を見ることで心が晴れるものである。ある人が、「月ほど趣深いものはないだろう」と言ったところ、また別の人が、「露こそが、しみじみと趣深い」と言い争ったのは、非常に興味深いことだ。

P23

- 3 (1) こずえ (2) イ (3) イ

※(1) 「ゑ」を現代仮名遣いに直すと「え」になる。

(2)「弥生」は三月、古文では一月から三月が春。「明ぼの」は明け方。

(訳) 三月二十七日のこと。明け方の空はぼんやりとして、有明(月が空に残っているままで夜が明けること)の月で光は弱くなっているのに、富士山の山頂はかすかに見えて、上野・谷中の桜の枝の先を、次にいつまた見ることができらるだろうかと、もの寂しい気持ちになる。

P23

- 4 (1) よう (2) イ (3) 人の心

※(1)「やう」を現代仮名遣いに直すと「よう」になる。

(訳) 自分が好きな文字でないからといって、簡単に他人の文字をけなすことがあつてはならない。文字には数えきれないほどの書き方がある。また、人の心もすべての人が違うものである。

P24

- 5 (1) きれいにすすぎてあけよ (2) ア妻 イ家の者 (3) ア

※(3)「ぬ」は、「完了」完了!してしまった

(訳) ある商人の家に、春の初めの朝ごとに、昆布やかちぐりなどを入れて置く鉢があつた。晩に妻が鉢を取り出して、使用人に「きれいに洗って空っぽにしておきなさい」と言って手渡すと、いったいどうしたことか、使用人は鉢を落として割ってしまった。

- 6 (1) ウ (2) ひしめきあえり (3) ウ

※(2)「へ」を現代仮名遣いに直すと「え」になる。

(訳) そのあたりの村々は近衛殿の御領地であつたが、左近尉という家老が農民から強引に年貢を取り立てたので、農民たちはこれを嘆いてどうしたらよいかと騒いでいた。

P25

- 7 (1) くわしく (2) 心越禪師 (3) イ

※(1)「は」を現代仮名遣いに直すと「わ」になる。
(3)「ぬ」||:た。::てしまった。

(訳) 心越禪師という僧は、音楽の学問にくわしく、徂徠翁の家に外国製の琴があると聞いて、つてを頼って徂徠翁に対面した。

- 8 (1) おまえにまいる (2) ア

(3) アものくさ太郎 イ(あてなる)女房

※(1)「へ」「ぬ」を現代仮名遣いに直すと「え」「い」になる。

(訳) ものくさ太郎が身分の高い女性のおそばにうかがおうとして、足がすべっておお向けに転んだ。女性が宝とお思ひになつていて琴の上に倒れかかり、琴をこなごなに壊してしまった。

P26

- 9 (1) イ (2) ウ (3) ようなる (4) ウ

※(1)「いと」||たいへん、非常に「をかし」||趣がある。

(訳) 九月ごろ、一晚中降り続いた雨が今朝はやみ、朝日がたいへん際立って差し込んでいるときに、庭の草木の露がこぼれおちるほど濡れかかっているのもたいへん趣深い。すき間の空いた垣根の飾りや軒の上などに、くもの巣がやぶれて残っているものに雨がかかっているのが、白い玉をつらぬいているようであり、たいへんしみじみとして趣深い。

P27

- 1 (1) 和せず (2) 今日雨ふらず (3) 天命を待つ

(4) せいざんをみるにしかず

※レ点:下の一字から、すぐ上の一字に返って読む。

一・二点:一点を読んだ後に二点を読む。

2 (1) 国 破^レ山 河 在^リ
 (2) 山^ハ 青^{クシテ} 花^ハ 欲^ス 燃^{エント}
 (3) 低^レ 頭^ヲ 思^フ 故^ニ 郷^一

P28

1 ①カ ②エ ③ウ ④オ ⑤キ

※対句法… 二つの句の組み立てが対になっている。
 反復法… 同じ語句を繰り返す。

隠喩法… 「ようだ」などの言葉を用いないでたとえる。
 直喩法… 「ようだ」などの言葉を用いてたとえる。

体言止め… 行の最後を体言(名詞)で終える。
 擬人法… 人でないものを人のように表すこと。

倒置法… 文の中で語順を普通とは逆にする事。

2 (1)ア (2)エ

※(1) まだあげそめし(七音) まえがみの(五音) のように、
 七音と五音の繰り返し。

(2) 「思ひけり」のように、昔の言葉で書かれている文語体の詩であり、
 「七音」と「五音」の繰り返し定型である。

P29

(1) A (2)ア (3)や (4)ア
 (5) 季語 柿 季節 秋

※(1) A は「五・七・七・五・七・七」の短歌、

B と C は「五・七・七・五」の俳句。

あはれ	あわれ
いはく	いわく
いふ	いう
なほ	なお
問ふ	問う
いづれ	いづれ
なんぢ	なんぢ
ある	いる
こゑ	こえ
をかし	おかし
行かむ	行かん
やうす	ようす
あやしう	あやしゅう
てうし	ちようし

現代仮名遣い

あはれ	しみじみと趣深い
あやし	不思議だ、身分が低い
ありがたし	めったにない
あらまほし	あつてほしい
いと	とても
いみじ	なみなみでない
いかで	どうして
うつくし	かわいらしい
おはす	いらっしゃる
おはす	本当に
げに	残念だ
心うし	言うまでもない
さらなり	早朝
つとめて	すぐに
とく	おっしゃる
のたまふ	…でございます
はべり	ただちに
やがて	尊い
やんごとなし	知りたい
ゆかし	とりとめもない
よしなし	

古語の意味

- (2) 「五／七・五・七・七」
 (3) 切れ字「や・かな・けり・ぞ・ぬ」など
 (4) 「五／七・五」
 (5) 俳句には一句に一つ季語を入れる決まりがある。

(1) ウ
(2) イ

(3) (例)

中学校の魅力は部活動です。自分の好きなことに熱中できる時間は、中学校生活の中で最も輝くひとときです。

私は、部活動こそが「自分たちで作り上げる」場だと考えます。部員同士で練習内容を話し合い、目標に向かって試行錯誤する過程こそが成長を生むからです。自分たちの手でチームを作る経験は、代えがたい自信になります。一緒に最高の部活動を作りましょう。

(3) 第一段落では、紹介する対象(何を選んだか)を明確にし、その意義(魅力)を述べている。

第二段落では、指定されたテーマに基づき、成長につながる具体的なプロセス(なぜそう考えるのか)を具体的に書いている。

結びでは、読み手への呼びかけを行うことで、紹介文としての効果を高めている。

(例)

資料から、八割近い生徒が部活動を続けて良かったと回答し、理由の一位は友人関係だと分かる。反面、学習時間の不足を課題とする声もある。

私は、部活動は続ける価値があると思う。勉強との両立は大変だが、仲間との絆や充実感は代えがたい財産になるからだ。時間を有効に使う工夫をしながら、最後までやり遂げる経験が、将来の自分を支える自信になると考える。

第一段落では、84人中67人という数字を「八割近い」と言い換え、資料の全体像を示している。また、「良かった理由」と「良くなかった理由」にも触れることで、資料を分析している。

第二段落では、「部活動は続ける価値があると思う。」という結論を冒頭に書くことで、自分の立場を明確にしている。そのあとに、なぜそのように考えるのかを、資料にある課題(学習時間の不足)のことにも触れながら書いている。